

地域NPO等と協働した子どもの貧困問題に関する市民啓発活動

社会福祉法人 越前自立支援協会

1.法人・施設の概要

◇所在地

福井県

◇法人設立日

平成17年11月29日

◇法人実施事業

児童養護施設…1箇所

児童家庭支援センター…1箇所

◇法人の理念・経営方針

基本方針

- (1) 可能な限り家庭に近い居場所を保障し、安全かつ安心して育つことができる生活環境を創る
- (2) 個別対応や心理療法的アプローチを重視し、子どもたちにとっていつまでも“心のふるさと”となりうる関係性を創る
- (3) 子どもの権利が擁護され、自己肯定感が育まれる養育環境を創る
- (4) 当事者の視点を大事にした実効的な自立支援システムを創る
- (5) 市民活動組織や地域自治組織と連携し、市民参画や情報公開を進めることで開放的・民主的・快活的な組織運営基盤を創る
- (6) 自治体をはじめ多様な社会資源との協働を通して、地域ニーズに応じた多角的・高機能的な社会的養護事業を創る

(7) マネジメント能力を有するとともに、自主的な研究や自発的な改革に挑み続ける人材が育成される組織風土を創る

(8) 全ての職員が孤立や暴走に陥ることがないようにミッションの共有とチームワーク（仲間意識）を大切にした職場風土を創る

◇施設名

児童家庭支援センター 一陽・児童養護施設 一陽

◇施設種別及び利用定員

児童養護施設（入所児童定員：40名）

2.活動内容

◇活動テーマ

地域NPO等と協働した子どもの貧困問題に関する市民啓発活動



社会的養護研究セミナーの様子

◇活動開始年

平成23年4月

◇活動の対象者

子どもの貧困問題の市民啓発…地域福祉関係者、行政職員、市民活動家、福祉に関心のある地域住民等

◇活動実施の背景、実施に至った理由

子どもの貧困問題は、虐待、不登校、自尊感情の低下など、いわば子どもたちの“育ちづらさ”や“生きづらさ”の温床になっているといわれている。また6人に1人の子どもが貧困状態にある今日の状況は、コミュニティの紐帯を断絶し、地域社会全体を崩壊へと導くリスクを孕むに至っている。

そこで貧困の渦中であって、地域社会で孤立し、将来への希望や生きる意欲を喪失している子どもたちの実態を広く地域住民に伝え、みんなでもって問題解決の糸口を見出していこうと市民啓発活動を企画した。

◇実施内容

平成26年5月30日、京都府内において子どもの貧困対策活動を先駆的に実践しているNPO法人山科醍醐子どものひろばの村井理事長を発題者としてお招きし、「子どもの貧困を考える市民セミナー」を越前市にて開催した。

本集会は、今後の地域セーフティネットワークづくりを意識し、越前市内の福祉系NPOや福祉事業所、社会福祉士会や里親会などと協働して実施された。結果、地域の福祉関係者や市民活動家、民生委員、行政職員など100名を超える参加者を得、子どもの貧困問題の緩和や解消に向けて課

題の整理と共有化をはかった。

◇活動の効果

市民啓発活動が実り、越前市は、平成26年8月に、ひとり親家庭や生活困窮家庭の児童を対象とした学習支援教室（名称：ピース教室）を開所した。自治体の自主事業である本教室は、JR武生駅に隣接する越前市福祉健康センター内で定期的（毎週火・金曜日）に開催されており、現在6名の児童が利用している。

◇今後の展開

子どもの貧困問題を地域社会で解決していくためには、コミュニティ全体を巻き込むソーシャルアクションが必要不可欠である。そこで次年度には「貧困の連鎖を断ち切る」というミッションをより深化させ、貧困家庭全体が陥っている社会的孤立や排除、漂流などにスポットを当てた市民啓発セミナーを開催していきたい。

あわせて本集會を企画するにあたっては、地域の他社会福祉法人やNPO、研究者等との協働開催を模索し、支援ネットワークのウイングを一層広げていきたい。